

「舌をぬこうか」
「ふんせー」
「ふんせー」



キヤーこわい！
ド迫力!!のえんま様



「室町から江戸時代に作られたのは...」と木山寺住職の垣井さん。隣の閻魔様は150cmくらいか？

三原 半山寺の閻魔像

小早川家歴代のお墓の隣にあった閻魔堂（今はもう道路になっている）。後生を願う地域の人の信仰を集めていたそう。嘘をつく舌を抜かれるという冥界の裁判官・閻魔大王。嘉禄元年（1235）小早川茂平が念仏堂を建立したという由緒ある米山寺で見る事ができる。

※勾玉（まがたま）とは...縄文時代に作り始められた装飾品のこと

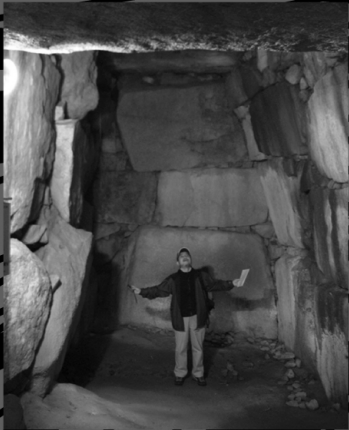
**古代人のアクセサリー
巨大まがたま**



世羅 大田庄歴史資料館の子持勾玉

勾玉と本体につく突起物が親と子のように見えることからその名がついた「子持勾玉」。「大きく作られているので装飾品ではなく、御神体ではないかと考えています」と教育委員会の林さん。普通の勾玉に対して子持勾玉の大きさは約5倍、古墳時代のもと思われる。

**広島
のつぽ古墳**



巨石を積み重ねた壮大な石室は自由に見学できる。

三原 本郷・梅木平古墳

史跡や古墳をはじめ、古代の遺跡が数多く点在するため「広島のみつぽ香村」とも呼ばれる本郷。その古墳の中でも、梅木平古墳は6世紀後半～7世紀はじめ頃のもので、全長約13m、高さ約4.2mの、広島県最大の石室がある。

三原で2体しかありません

三原 三原市歴史民俗資料館のぞきからくり

大きな箱の中に、ひもでつるされている絵を側面のレンズで覗いてみる「のぞきからくり」。幕末・明治期へと、縁日や祭りの花形だった大型紙芝居機（高さ・横幅とも3メートル以上!）。全国でも数台しか残っていない。



**江戸のからくり
大型くる紙芝居**



真ん中が大獅子で、両サイドが普通サイズ。改めて見るとひょうきんな顔立ち、耳もバタバタ動いてかわいい。

**文化財も
ヘビー級!**

**2年に一度お目見え
下津の大獅子**



我らしまい3兄弟

これがみはらっせサイズだ!!
ビッグ編

女子きにせーや

かみつくぞ!!



2年に一度、稲荷神社で行われる無形文化財「祇園祭」にて奉納される下津地区の獅子舞。

三原 久井・下津区の獅子頭

小さい頃、頭を噛み付かれ恐かった獅子舞。下津地区にはさらに迫力満点、重さ15kgという巨大な獅子頭がある。地元の八幡神社にあった大獅子頭を修繕、地元祭りの他、いろいろなイベントでも披露している。「久井の祭りを見にきてや!」と下津区・獅子舞保存会の有清さん。祇園祭と1年交互に行われる「ウツッソ祭り」でも思考をこらした出し物で笑いを誘っている。